

2022(令和4)年度

学校法人麻生塾 事業報告書

2023年5月31日

学校法人麻生塾の建学の精神

「仕事を通じて社会に貢献」

麻生塾の沿革

麻生塾は1939年（昭和14年）3月31日、採鉱技術者を養成する目的をもって、福岡県飯塚市柏の森の麻生農園跡に誕生した。それは、個人商店として炭鉱事業を営んでいた組織を「株式会社麻生商店」として会社組織に変更した20周年を記念した、教育関係3事業のひとつだった。麻生塾は同社社長・麻生太賀吉氏（1911年～1980年）の、とりわけ深い思い入れをもって創設された。

麻生太賀吉氏は、少年時代に指導を仰いだ九州帝国大学教授の河村幹雄博士（地質学、1886年～1931年）の卓越した人格と学識に強い感化を受け、同博士の教育の理想を具現した学校設立を念願していた。河村博士は地質学者である一方、「教育の他に何者もなし」の信念のもと、教育者としても名高く、今日にも通じる多くの提言を残されている。

時代は太平洋戦争前夜、すでに中国と交戦状態にあり、日々戦時色が濃くなる中、石炭増産が強く叫ばれていた。

麻生塾の目的は、職業を通じて社会に奉仕する中堅産業人を育成することだった。麻生太賀吉氏は、どのような時代になっても人間教育が最も大事であることを、強い信念としていた。創設当時の新聞には「昭和の松陰塾」と報道された。

開校当初、麻生塾の修業年限は3年、これを学習2年、実習1年に分け、各学年とも1学級とした。河村博士の教育方針に徹して少数定員主義をとり、1学年の定員を20名以内とした。入学生は高等小学校卒業生を対象とし、生徒は全て寄宿舎に入る全寮制、学費は全額を支給するほか、社員見習いの資格で月々若干の手当ても支給されていた。

長い戦争が終わり、新生日本の六三三制教育の実施に伴い、1948年（昭和23年）3月、麻生塾は新制高校、麻生塾工業高等学校（採鉱科）として再スタートを切ることになった。学制は変わっても、「仕事を通じて社会に貢献」という建学の精神は、少数定員主義、全寮制、給費制とともに、戦後もそのまま堅持された。そして、その特異な校風は広く教育界に認められるところとなった。

2022(令和 4)年度 事業報告書・目次

I. 法人の概要	
1 沿革	… 5
2 設置する学校・学科	… 6
3 学校別入学定員、学生数等の状況	… 8
4 組織図	… 9
5 教職員の概要	… 10
II. 事業の概要	
1 重点施策の推進	… 11
(1) 学生募集活動の強化	
①入試施策	
②入学状況	
(2) 就職・キャリア形成支援	… 11
①就職支援策の実施	
②多様化する学生への就職サポート	
③インターンシップの充実	
④外国人留学生への就職サポート	
⑤実績及びその他の活動	
⑥ASO卒業生キャリア支援「CONNECT（コネクト）」の運営	
(3) 教育の質向上	… 13
①教員の資質向上	
②オンライン授業促進	
③授業アンケートによる授業改善	
(4) グローバル化の推進	… 13
①外国人留学生の受入れ	
②海外留学の強化	
③麻生塾海外留学奨学制度	
④インドネシアBINUS 大学 3年次生のインターンシップ受け入れ	
⑤教職員におけるグローバル感覚醸成	
2 学校運営	… 15
(1) 運営組織	
①本部機能	
②各学校	
(2) 社会的責務への対応	
3 教育活動	… 16
(1) 学科の新設、廃止	
①麻生外語観光&製菓専門学校	
②ASO ポップカルチャー専門学校	
(2) キャリア教育（グローバル シティズン・ベーシック教育：GCB 教育）	
①GCB 教育の概要	
②教育改善	
(3) 研究関連活動	

4	学生支援	・・・	18
	(1) フレックスクラス・学生相談室		
	(2) 学びラボ		
	(3) 学修支援のための奨学金制度		
5	教育環境の整備	・・・	19
	(1) 教育環境の整備状況		
	①ICT 教育環境の改善		
6	社会貢献・地域貢献	・・・	19
	(1) 活動状況		
	①次世代リーダー養成塾への担任派遣		
	②ボランティア活動		
7	働きがい創生	・・・	20
	(1) 多様な働き方への対応		

I. 法人の概要

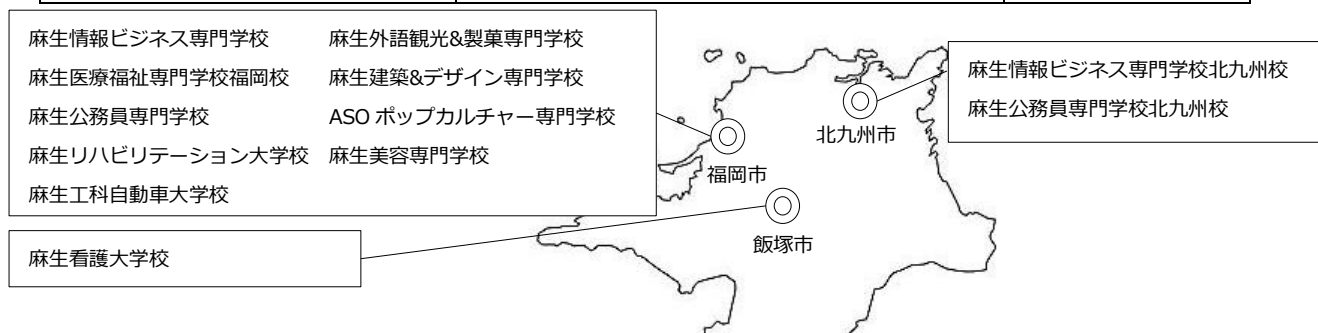
1. 沿革

1939 年（昭和 14 年）3 月	麻生太賀吉、幹部社員育成のための完全無料の研修所「麻生塾」を設立
1947 年（昭和 22 年）12 月	財団法人麻生塾を設立
1948 年（昭和 23 年）3 月	学制改革により麻生塾工業高等学校 開校
1951 年（昭和 26 年）3 月	学校法人麻生塾に組織変更
1980 年（昭和 55 年）4 月	飯塚病院附属高等看護学院を学校法人麻生塾麻生飯塚看護専門学校に改称
1986 年（昭和 61 年）4 月	麻生電子ビジネス専門学校 開校（1 号館）
1989 年（平成元年）4 月	麻生飯塚看護専門学校を麻生医療福祉専門学校に改称
1991 年（平成 3 年）4 月	専修学校麻生外語観光カレッジ 開校（3 号館）
1996 年（平成 8 年）4 月	麻生法律専門学校、麻生医療福祉専門学校北九州校、 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジ、戸畑に開校
1997 年（平成 9 年）4 月	麻生医療福祉専門学校福岡校 開校（4 号館）
1998 年（平成 10 年）4 月	麻生工科専門学校 開校
2001 年（平成 13 年）4 月	麻生リハビリテーション専門学校 開校 専修学校麻生テクニカルデザインカレッジを麻生電子ビジネス専門学校北九州校に改称
2002 年（平成 14 年）4 月	麻生法律専門学校を麻生公務員専門学校に改称 専修学校麻生ビューティーカレッジ 開校
2003 年（平成 15 年）4 月	麻生電子ビジネス専門学校を福岡校、北九州校 とともに麻生情報ビジネス専門学校に改称
2004 年（平成 16 年）4 月	麻生塾 北九州キャンパス小倉校舎 竣工 麻生公務員専門学校を麻生公務員専門学校北九州校に改称 麻生情報ビジネス専門学校北九州校及び麻生公務員専門学校北九州校 移転
2005 年（平成 17 年）4 月	麻生公務員専門学校福岡校 開校 麻生工科専門学校を麻生工科デザイン専門学校に改称
2006 年（平成 18 年）4 月	専修学校麻生外語観光カレッジを専門学校麻生外語観光カレッジに改称
2008 年（平成 20 年）4 月	専門学校麻生工科自動車大学校 開校
2008 年（平成 20 年）8 月	麻生外語観光カレッジの新実習棟「ASO SKY CUBE」 竣工（8 号館）
2009 年（平成 21 年）4 月	専門学校麻生外語観光カレッジを麻生外語観光&製菓専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校を麻生看護医療専門学校に改称 麻生工科デザイン専門学校を麻生建築&デザイン専門学校に改称 麻生医療福祉専門学校北九州校を専門学校麻生医療福祉&観光カレッジに改称
2010 年（平成 22 年）3 月	麻生公務員専門学校福岡校 新校舎竣工（9 号館）
2012 年（平成 24 年）4 月	麻生リハビリテーション専門学校を専門学校麻生リハビリテーション大学校に改称 麻生看護医療福祉専門学校を専門学校麻生看護大学校に改称
2012 年（平成 24 年）9 月	麻生塾 北九州キャンパス西小倉校舎 竣工 麻生公務員専門学校北九州校 移転
2015 年（平成 27 年）3 月	福岡キャンパス 10 号館 竣工
2015 年（平成 27 年）4 月	株式会社麻生キャリアサポート 設立
2016 年（平成 28 年）9 月	福岡キャンパス 11 号館（旧博多織会館）取得
2017 年（平成 29 年）7 月	株式会社プロジェクトスタジオ Q 設立
2018 年（平成 30 年）4 月	ASO ポップカルチャー専門学校 開校
2019 年（平成 31 年）4 月	ASO 高等部 設立
2020 年（令和 2 年）4 月	専修学校麻生ビューティーカレッジを麻生美容専門学校に改称、福岡キャンパスに移転
2022 年（令和 4 年）3 月	麻生医療福祉&観光カレッジ 閉校

2. 設置する学校・学科（2022年5月1日 現在）

学校名(所在地)	学科名	備考
麻生情報ビジネス専門学校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-32)	情報工学科 高度 IT システム専攻 情報工学科 高度ネットワーク・セキュリティ専攻 情報工学科 AI&IoT 専攻 情報システム専攻科 システムエンジニア専攻 情報システム専攻科 ネットワークエンジニア専攻 情報システム専攻科 AI エンジニア専攻 情報システム科 プログラミング専攻 情報システム科 ネットワーク専攻 情報システム科 AI プログラミング専攻 ビジネスエキスパート科 情報ビジネス科 経営ビジネス科 経理科 国際ビジネス科 国際 IT エンジニア科	留学生専用学科 留学生専用学科
麻生外語観光&製菓専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-17) (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	エアライン科 エアポート科 ブライダル・ウエディング科 ホテル・リゾート科 トラベル科 海外ビジネス科 英語コミュニケーション科 製菓パティシエ科 国際ホテル・リゾート科 日本語科(1年課程) 日本語科(1.5年課程) 日本語科(2年課程)	募集停止 留学生専用学科
麻生医療福祉専門学校 福岡校 (福岡市博多区博多駅南 2-12-24) (福岡市博多区博多駅南 2-12-29)	医療秘書・事務科 診療情報管理士専攻科 診療情報管理士科 こども未来学科 こども保育科 社会福祉科 福祉心理学科 ソーシャルワーカー科 介護福祉科 社会福祉士通信課程 精神保健福祉士通信課程	新設 募集停止
麻生建築&デザイン専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-11-13) (福岡市博多区博多駅南 1-14-12)	建築工学科 建築士専攻科 建築学科 建築CAD科	

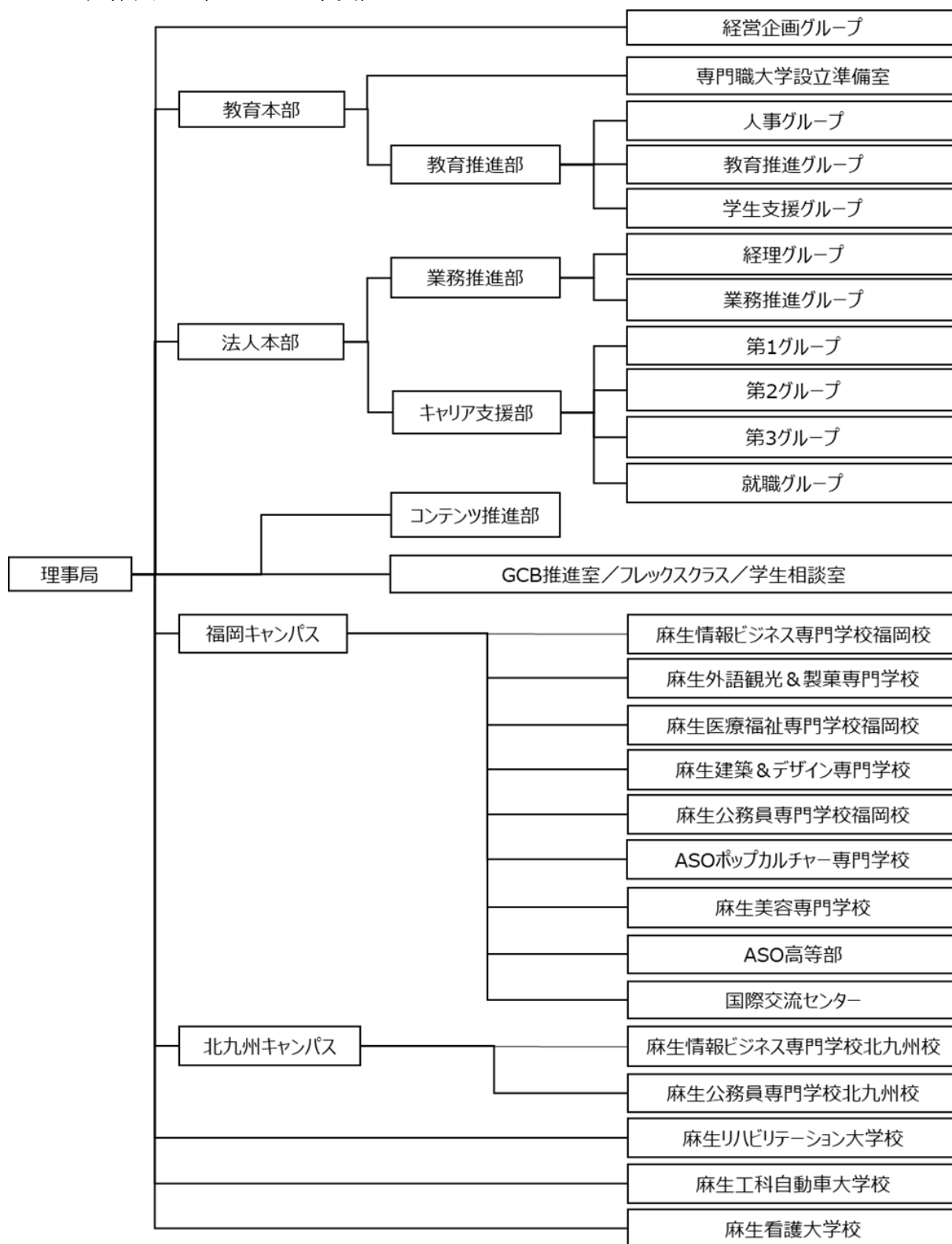
	インテリアデザイン科 建築学科<夜間> クリエイティブデザイン学科	
麻生公務員専門学校 福岡校 (福岡市博多区博多駅南 1-14-14)	公務員専攻科 公務員総合科 公務員中上級専攻科 公務員中上級教養科	
ASO ポップカルチャー専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-14)	ゲーム・CG 専攻科 ゲーム・CG・アニメ科 マンガ・イラスト科 マンガ・イラスト研究科	
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区浅野 2-11-33)	システムエンジニア科 コンピュータシステム科 オフィスビジネス科 ゲームクリエイタ科 C Gデザイン科	
麻生公務員専門学校 北九州校 (北九州市小倉北区室町 3-2-62)	公務員専攻科 公務員総合科	
麻生看護大学校 (飯塚市芳雄町 3-83)	看護科 看護科通信課程	
麻生リハビリテーション大学校 (福岡市博多区東比恵 3-2-1)	理学療法学科<昼間部> 理学療法学科<夜間部> 作業療法学科<昼間部> 作業療法学科<夜間部> 言語聴覚学科<昼間部> 言語聴覚学科<昼夜間部>	
麻生美容専門学校 (福岡市博多区博多駅南 1-13-16)	美容科 美容科通信教育課程	
麻生工科自動車大学校 (福岡市博多区東比恵 2-8-28)	1 級自動車整備科 2 級自動車整備科 自動車工学・機械設計科 国際自動車整備科 日本語科(1.5 年課程)	留学生専用学科



3. 学校別入学定員、学生数等の状況（2022年5月1日時点）

学 校 名	入学定員	収容定員	在学生数
麻生情報ビジネス専門学校	410	1020	1,171
麻生外語観光&製菓専門学校	540	1020	470
麻生医療福祉専門学校 福岡校	285	645	405
麻生建築&デザイン専門学校	470	1020	884
麻生公務員専門学校 福岡校	595	855	629
ASO ポップカルチャー専門学校	370	930	485
麻生美容専門学校	114	228	168
麻生情報ビジネス専門学校北九州校	160	380	438
麻生公務員専門学校 北九州校	220	300	260
専門学校麻生リハビリテーション大学校	260	800	568
専門学校麻生工科自動車大学校	210	545	372
専門学校麻生看護大学校	60	180	182

4. 組織図 (2022年度)



5. 教職員の概要（2022年5月1日 現在）

学 校 名	教員 (専任)	教員 (兼任)	職員 (専任)	職員 (兼任)
麻生情報ビジネス専門学校	42	31	47	6
麻生外語観光&製菓専門学校	28	80	3	51
麻生医療福祉専門学校 福岡校	27	103	6	54
麻生建築&デザイン専門学校	27	54	4	
麻生公務員専門学校 福岡校	29	15	3	
ASO ポップカルチャー専門学校	24	16	3	
麻生美容専門学校	13	29	3	
麻生情報ビジネス専門学校北九州校	14	22	6	0
麻生公務員専門学校 北九州校	10	6	4	0
専門学校麻生リハビリテーション大学校	37	90	8	0
専門学校麻生工科自動車大学校	22	15	6	0
専門学校麻生看護大学校	12	100	17	0
法人本部			19	
教育本部			16	1
GCB 推進室・フレックスクラス・学生相談室			3	1
経営企画グループ			11	
コンテンツ推進部			3	

Ⅱ. 事業の概要

2022年度に行われた学校法人及び設置学校における事業の概要は、次のとおりである。

1. 重点施策の推進

法人及び設置学校の安定した経営基盤確立のため、下記事業活動における各施策の推進に努めた。重点施策の主な実績は以下の通りである。

(1) 学生募集活動の強化

① 入試施策

意欲ある学生の安定的な確保の為、以下の募集活動を展開した。

(ア) オープンキャンパス、出張説明会（九州各県及び山口県）

2022年度は2021年度に引き続き、コロナ禍で募集活動が制限されることが予測されたものの、コロナ禍で培った zoom、電話、YouTube 等によるオープンキャンパスを継続しつつ、4月からは対面でのオープンキャンパスや各地からのバス動員も展開した。

対面でのオープンキャンパスは感染症対策を行いつつ、学校見学や体験授業に参加したい高校生、保護者等のニーズに対応する内容で実施した。各学校、各学科の魅力をお伝えすることで参加者の進路実現を促した。

(イ) 入学試験

各種入学試験についても、感染症予防を考慮して、対面とオンラインが選択できる形式を採用し、受験希望者が安心して進路を決めることができる環境作りを推進した。

(ウ) 各種オンラインコンテンツの拡充

これまで実施していた取り組みに加え、進学希望者や保護者、高等学校の先生方の情報取得方法が多様化していることを踏まえ、YouTube、Instagram 等での発信力を高めつつ、各種オンラインコンテンツの拡充を図り、職業理解・若年層向けのイベントなどを展開した。

② 入学状況

麻生専門学校グループ全体では、コロナ禍による社会的環境変化の影響を受けたこともあり、分野やエリアによっては減少したものの、2022年においては上記取り組みの結果、進学希望層の方々に本校を知っていただく機会が増え、最終的には昨年度と比べ、入学者数増となった。

(2) 就職・キャリア形成支援

学生に対する就職支援及びキャリア形成支援を推進することにより、学生の職業観醸成及び職業に関する知識・技能を修得して主体的に進路を選択できる能力を育成し、社会で活躍し続ける自立した人材を育成することを目的としている。

① 就職支援策の実施

学生の就職活動支援においては、ファーストキャリアを重要視し、教務部門・就職部門にて業界企業と連携し、学生及び保護者のニーズと照らし合わせ、進路支

援を行っている。就職年次のクラス担任および新任教員向けに開催する就職研修会にて変化を続ける就職環境の把握と就職指導力の養成にて、よりきめ細やかな就職支援を提供できる体制を整えている。

「就職・進路ガイダンス」「個別面接対策指導」「学内合同企業説明会」等を実施し、内定のみを目的とせず、職業理解を深めることでその後の定着率を向上する取り組みを行った。

② 多様化する学生への就職サポート

時代の変化とともに学生も多様化していく中において、一人ひとりの学生に合わせた個別指導が更に重要となっている。また、企業採用側においてもマス型採用から個別採用が重要視されてきており、就職指導において個別指導の必要性が増している。

本校では就職に関する相談や面接練習の為の「就活サポート室」や「面接教室」を通年で運営している。専門のキャリアカウンセラーが就職相談や個別面接指導、自己分析、志望動機の深堀など、学生一人ひとりのニーズに合わせた就職サポートを提供した。

③ インターンシップの充実

学生のアクティブなキャリア形成の重要な仕組みとして、以下のインターンシップを実施し、職業への憧れだけでなく、実際に社会人として働く意識の向上に繋がった。

○ 実施しているインターンシップ

- (ア) インターンシップ（単位取得型）
- (イ) インターンシップ（企業実習型）
- (ウ) インターンシップ（自己開拓型）
- (エ) インターンシップ（学内企業誘致型）
- (オ) 業界セミナー
- (カ) 職種理解セミナー
- (キ) 実習前研修、新社会人研修

④ 外国人留学生への就職サポート

日本国内で就労が可能となるよう、就職支援を手厚く行った。

2022 年度も多彩な取り組みを実施し、94%の進路決定率となった。

- (ア) 留学生採用企業の求人開拓
- (イ) 日本での就職活動の基本的な進め方を指導する「就職・進路ガイダンス」
- (ウ) 面接指導
- (エ) 各種提出書類の記入指導
- (オ) 卒業生同席での説明会開催
- (カ) 在留ビザ更新のための法務調査

⑤ 実績及びその他の活動

2022 年も就職率「98.9%」と昨年以上の実績を上げることができた。

また、「学生の就職に対する満足度向上」及び「定着率の高い就職」に向け、以下の対策を実施し、求人内定につながると共に、学生・企業双方の満足度が高い求人内定機会を創り出し、人材を通じた社会貢献を実現している。

(ア) 即戦力を養うための教育カリキュラムを企業と共同開発

(イ) 卒業生による支援 業界セミナーや学内説明会等において業界職種に関する実例をもとにした講話を実施

⑥ ASO 卒業生キャリア支援「CONNECT（コネクト）」の運営

卒業生の再就職支援や仕事の悩み相談、不安解消まで、専門のキャリアカウンセラーによる個別サポート体制を整えている。丁寧なカウンセリングを行ない、悩みの解決や自己分析、志望動機の深堀など、社会で活躍し続けるためのキャリア構築のサポートを行っている。

(3) 教育の質向上

① 教員の資質向上

(ア) 授業力向上

教員の資質向上に向けて、授業アンケートに加え、校長代行による各教員への授業評価およびフィードバックを実施し、授業改善を推進している。また、取り組み状況については、自己点検・評価審査を通じて確認を行い、マネジメントサイクルの活性化を図っている。

(イ) 新任教員研修

新任教員の学生対応力、クラス運営力を高めることを目的に初年度研修を計画・実施している。チューターによるサポートに加え、1年間を通しての研修を受講することで、個々人の課題を確認し改善につなげる取り組みとしている。

(ウ) 学内研修

本校教員に授業力・指導力向上を目的とした講座を開講し、受講を促している。ブレンディッドラーニングやファシリテーション研修を通して授業の質向上に取り組むと共にアサーティブコミュニケーションの研修等を新たに開講し、多様化する学生に対する指導力向上にも取り組んでいる。

② オンライン授業促進

オンライン授業をする為の麻生塾独自の LMS (learning management system/学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステム) の開発、および授業動画や確認テストなどのコンテンツ開発を進めると共に、この LMS を用いた検証授業を実施し、新しい授業スタイルの構築を進めている。

③ 授業アンケートによる授業改善

半期毎に学生に対して教員の授業内容に関するアンケートを実施した。また、当該アンケート結果を元に、教員に対しフィードバックを行ない、気づきを記録することで、今後の授業運営改善や必要な能力開発を実施した。

(4) グローバル化の推進

2022 年度は、新型コロナウイルスの影響を引き続き受けながらも、感染危険レベルが低減した一部の国への留学プログラムを再開した。私費留学を希望する学生はいなかったものの、麻生塾が費用を支援する麻生塾海外留学奨学制度では、3名の学生が渡

航での短期留学に参加した。オンライン留学も引き続き開講を継続し、渡航が出来なくとも語学力を伸ばせる環境を確保した。また、全グループ校の学生が参加できる無料英語講座等を積極的に実施した。

① 外国人留学生の受入れ

麻生専門学校グループでは、世界各国（中国、台湾、フランス、ベトナム、スリランカ、韓国、タイ、インドネシア等 24 カ国・地域）からの留学生を「日本語科」、「専門課程」で受入れている。専門課程には留学生に特化した学科も設置している。2022 年 6 月時点において麻生専門学校グループで学んでいる外国人留学生数は 500 名である。留学生受け入れに際しては外国人スタッフ 5 名を配置することで学習支援のみならず、生活支援や就職支援にも対応した。

また、2019 年に発足した「留学生会」も 4 年目を迎え、地域清掃活動や日本人学生との交流、不要になった家電などのリサイクルを行うなど活発に活動した。

さらに、2022 年度においては各国によるコロナ禍の出国・入国制限が徐々に緩和されていく中で、4 年ぶりに海外の 2 つの高校より短期留学を受け入れた。本校専門課程でのアニメなどの体験授業や校舎見学、本校学生との交流を通し、現地の高校卒業後に麻生専門学校への留学を強く希望する声があがるなど、短期間ながら日本での有意義な研修となった。

② 海外留学（長期／短期）の強化

麻生塾では「グローバル社会に対応できる人材育成」に向け、全在校生を対象に海外留学プログラムを提供している。プログラムは夏季・春季の長期休みを利用して参加する短期留学と、1 年間休学して参加する長期留学を実施している。

留学に際しては、留学カウンセリング、奨学金制度、留学説明会・報告会などの支援に加え、留学先でのリスク回避を主眼においた出発前危機管理セミナー・危機回避シミュレーション等、学生のみならず保護者の方々にも安心して留学に参加してもらうための支援を行っている。海外への送出し先としては、8 カ国、16 教育機関となっている。

2022 年度は、感染危険レベルが低減した一部の国への留学プログラムの再開を決定し、全在校生へ案内を行った。航空券の高騰や残る感染リスクから、私費による短期・長期留学希望者はいなかった。

2023 年度へ向けて提携校と密にコミュニケーションを取り、渡航留学希望者を派遣する体制を整えることができた。

また、カリキュラムの中にフィリピンへの 1 カ月間の留学が組み込まれている学科においては、2021 年度に引き続き代替としてオンライン留学を実施した。フィリピン人講師とのマンツーマンレッスンを 1 日 5 時間、3 週間に渡って受講した。

③ 麻生塾海外留学奨学制度

在校生の英語に対する興味喚起と異文化理解促進を目的に、麻生塾海外留学奨学生制度を 2015 年より開始した。例年フィリピン・セブ島での 2 週間の語学研修を実施していたが、2022 年度から派遣国を増やし、カナダ 1 週間またはフィリピン・セブ島 2 週間のどちらかを選択できるようにした。2022 年度は、1 名をカナダ、2 名をフィリピン・セブ島に派遣し、計 3 名が渡航した。帰国後には「成果報告会」を実施し、在校生や教職員へ自身の成長について発表を行った。

④ インドネシア BINUS 大学 3 年次生のインターンシップ受け入れ

将来的な麻生塾での高度外国人人材採用を視野に、2022 年 2 月より 1 年間、BINUS 大学の 3 年次生・4 年次生計 4 名を麻生塾にて対面インターンシップ生として受け入れた。語学研修を行いつつ、各人の BINUS 大学での専攻分野に対応する部署で業務を経験した。尚、このインターンシップは BINUS 大学の単位として認められている。インターンシップ生の日本での就業体験はもとより、麻生専門学校グループのグローバル対応能力向上に向けての取り組みの 1 つとなっている。例えば、麻生塾学生へ無料の英語講座を実施するなど、グローバル推進に貢献している。

2022 年度のインターン生 4 名の内、1 名がインターン終了後に日本企業から内定を取得した。

⑤ 教職員におけるグローバル感覚醸成

教職員におけるグローバル感覚の醸成を目的に、教職員自身がグローバルな視点を養えるよう取り組みを実施している。2022 年度は、カジュアルな英会話イベントや、BINUS 大学からのインターンシップ生との交流イベントなど、教職員が気軽に英語を使用し、外国の文化・価値観に触れられる機会を提供した。従来からある教職員向け無料英語講座の受講斡旋も例年どおり行い、2022 年度は過去 5 年間で最多の 55 名の教職員が無料英語講座を受講した。

2. 学校運営

(1) 運営組織

組織体制としては 12 校の専門学校に加え、各校の運営をサポートする本部機能を有している。

① 本部機能

法人本部・教育本部という 2 本部体制により、各学校とスピードを持った連携を図ることを目指した。また、機能別に役割を分けることにより、各部門の役割と部門の目指すべき方向性を明確にした。

② 各学校

学校運営全般業務

(2) 社会的責務への対応

学校法人麻生塾は、7,098 名の学生が在籍しており、年々社会的存在感も大きくなっている。また、昨今では、留学生の増加に伴い、国際的な交流を基とした信頼関係の構築が不可欠となっている。

学校法人麻生塾のなす学校教育や、CSR(Corporate Social Responsibility)活動への注目度も大いに高まっている。

そこで、学校法人麻生塾の果たす社会的責任の再認識、保護者及び地域社会から信頼される組織としてのあり方から、法律や規制の遵守（法令遵守）はもとより、教育活動の透明性、倫理、環境問題等へのより質の高い具体的な対応が求められている。

【社会的責務への対応】

企業、社会に貢献するべく、各校にて質の高い授業を展開し、優秀な人材を送り出

す努力を続けている。

【社会的責務を果たす前提としての組織適正化】

麻生塾ではこのような法令順守の重要性およびコンプライアンスの観点から、組織として、「危機管理体制」としてリスクマネジメント委員会を設置し、リスク管理、リスク事案発生時の迅速対応を図る体制を置いている。

かかる体制により、リスク事案発生防止、早期対応により、適切な教育活動、CSR活動が可能となり、社会的責務を果たしている。

下記にて具体的に記す。

【継続的取り組み】

- ① コンプライアンス（法令遵守）研修への参加後、法令順守の重要性について各部門へ発信を実施
- ② リスク、クレーム対応能力の醸成を図る為、外部リスク関連研修へ参加
- ③ リスクマネジメント部門の積極的な運営、活動により「小さなリスク」の芽を摘む活動を実施
- ④ 各種マニュアルのブラッシュアップを実施し、教職員・学生の安全確保体制の構築

【2022 年度取組】

- ① リスクマネジメント委員への解決の醸成のため、定期にリスクマネジメント委員会を開催し、ヒヤリハットの共有と学習会を実施。但し、コロナ禍で、新型コロナウイルスに傾注し、一般のリスク事案への対応が薄くなった。組織的にはリスク担当部署を設置し、情報の収集を行い、再発防止に力点を置いている。
- ② ヒヤリハットレポートを集約し、リスク分析を行い教職員の認識に落とし込みを図っている点は例年同様ではあるが、ヒヤリハットの集約数が減少している。
- ③ マネジメントサイクルの活性化に向け、社用車の運用状況に関する内部監査、残業が多い部署に対する内部監査を実施した。

以上、質の高い教育、CSR 活動を通じ、社会的責務を果たし、その前提として「危機管理体制」を構築している。

3. 教育活動

(1) 学科の新設、廃止

① 麻生外語観光&製菓専門学校

業界動向を見据え、教育課程の再構築を行った結果、学科編制の見直し（学科統合）を行うこととし、グローバルコミュニケーション科・エアポート科（1年課程）を新設し、エアポート科（2年課程）・トラベル科・海外ビジネス科・英語コミュニケーション科の募集停止を行った。

② ASO ポップカルチャー専門学校

分野特性を再考し、より専門性を高めることを目的に学科編制の見直しを行った結果、ゲーム専攻科・CG 専攻科・ゲーム学科・CG 学科・アニメ学科・マンガ学科・イラスト学科を新設することとし、ゲーム・CG 専攻科、ゲーム・CG・アニメ

科の募集停止を行った。

(2) キャリア教育 (GCB 教育)

① GCB 教育の概要

麻生専門学校グループの教育理念に沿った人材育成の一貫として位置付けられている独自のキャリア教育プログラムである。実社会にて、専門スキルを十分に発揮するため必要とされる社会人スキルと、その土台となる人間力の向上を目的とし、3段階の教育内容にて構成されている。

教育目標は、麻生グループ 110 社 (2022 年 4 月 1 日現在) が掲げる人材「グローバルシティズン」(定義: 世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に貢献する人)を育成像とし、GCBⅠ・Ⅱプログラムについては全学生が履修する。

(ア) GCBⅠ

社会で生き抜く基盤を「感謝する心」として据え、自らの責任において行動できる積極性や、良好な人間関係を構築するコミュニケーションなどを中心に「社会人基礎力」の理解と向上について学ぶ

(イ) GCBⅡ

強い信念と共に公・社会を視野に入れ、具体的な行動目標(言語化・数値化)をもって努力を継続することで実現する「志」について考える

(ウ) GCBⅢ (選抜方式)

グローバル社会における活躍人材や多様性を生かしたリーダーシップ、また組織力を高めるフォロワーシップなどを学内外の講師陣より学ぶ

② 教育改善

GCB 教育を本校独自のキャリア教育プログラムとして導入し、12 年が経過した。学生が卒業した後のキャリアパスを想定し、2013 年頃までに見られた会社主導型キャリア形成期においては「人間力＝マナー(協調性)・人間性(感謝心)」を軸に GCB 教育を展開し、その後、「社会人基礎力」の強化を図る内容を付加することで、プログラムのブラッシュアップを行ってきた。

コロナ禍における教育の 3 年目としてとして、2020 年度にオンデマンド教材を作成(GCBⅠ)、また登校可能な時期に対面授業(GCBⅡ)を実施する等のフレキシブルな対応をとるハイブリット型が定着した。GCBⅢにおいては、正規校日外に開講されるプログラムであることからコロナウイルス感染拡大防止の観点にて、2021 年度よりライブ型によるオールオンラインのプログラムに切り替え、引き続きの実施となった。実際のフィールドワークが不可能な分、海外の大学や国内の専門学校等と ZOOM や Teams による広域交流で視野を広め、各講座におけるディスカッションやチームビルディングの取り組みでは、オンラインコミュニケーションのスキル向上につながった。今後、コロナ終息の状況が見えても一部における GCB 教育のオンライン化は推し進めていく予定である。

(3) 研究関連活動

文部科学省および厚生労働省の委託事業の参加状況は下記のとおりである。

- (ア)ものづくり IT 人材育成のためのリスタートプログラム開発事業
- (イ)デザイン・ICT 人材育成のためのリスタートプログラム開発事業
- (ウ)製菓分野における、教育効果の高い遠隔及び e ラーニング教育実践モデル開発事業
- (エ)遠隔教育によるチームプログラミング導入モデルの構築
- (オ)Society5.0 [創造社会] における情報分野の DX 人材養成プログラム開発プロジェクト
- (カ)「九州・沖縄地域共生社会推進会議」地域包括ケアワーキンググループ
- (キ)まちづくりファシリテーター養成講座
- (ク)古賀市連携 古賀駅西口エリア活性化プロジェクト
- (ケ)令和 2 年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
 1. 職業実践専門課程の充実に向けた自己点検・評価システムの検証と質保証・向上のための取組
 2. 全学的な職業教育マネジメント確立のために必要な専門スタッフ育成と情報公開の促進体制の整備
- (コ)福岡県看護教員養成講習会
- (サ)AR を活用した自動車整備の演習・実習のコンテンツ開発事業
- (シ)「先端技術利活用実証研究プロジェクト」看護分野における遠隔教育導入モデル開発事業

4. 学生支援

(1) フレックスクラス・学生相談室

学生の多様化にともない、諸々の課題を抱え、通常クラスでの修学が困難な学生を対象に「学びの第二環境」という位置づけにて、福岡キャンパス内にフレックスクラスを設置した。オンライン授業等を活用しながら単位履修に努め、同時に社会性の育成、意識向上に向けての指導を行うことにより、卒業や通常クラスへの復帰を目指している。また、安心して学生生活を送ることができるよう、学生相談室を設置し、全学生が修学・就職活動の悩みを自ら乗り越え、入学目的を達成するためのサポートに取り組んでいる。

運営にあたっては、守秘義務を順守するとともに、個人情報保護管理規程に則って相談内容を適切に管理している。

① 実施内容

- (ア) 臨床心理士によるカウンセリング
- (イ) 担当者によるインテーク面談

(2) 学びラボ

基礎学力面でのサポートを実施するために「学びラボ」を設置し、学生の学習習熟度に応じて個別授業・集合型授業を実施し、学修意欲の維持向上に努めている。

① 実施内容

- (ア)開講期間：7 月～2 月（全 30 回）

(イ)科目：国語・数学基礎

(3) 学修支援のための奨学金制度

将来有為な人材として期待される学生が修学に専念できる教育環境を整えるため、多様な能力を評価する奨学生制度を実施している。

- (ア) 特待生制度-特待 A (学力特待生制度)
- (イ) 特待生制度-特待 B (総合力特待生制度)
- (ウ) 特待生制度-特待 C (資格等特待生制度)
- (エ) 再進学支援金
- (オ) 自然災害発生に伴う支援制度
- (カ) 寮奨学制度
- (キ) 麻生塾海外留学奨学制度

5. 教育環境の整備

(1) 教育環境の整備状況

① ICT 教育環境の改善

オンライン授業やクラウドサービスへの接続安定化のため、号館ごとにインターネット回線の増強、Wi-Fi 環境の改善を行った。

6. 社会貢献・地域貢献

(1) 活動状況

① 次世代リーダー養成塾への担任派遣

日本の次世代リーダー養成塾とは、経済界や地方自治体が中心となり、全国の志の高い高校生を対象に日本以外にも世界を舞台に挑戦する人材の育成を目指したサマースクールである。次世代リーダー塾では、従来の学校教育では実現できない、日本や世界を代表する様々な分野で活躍する一流の講師を招き、学問の楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを教える。

クラス担任は企業の中堅社員が務めており、麻生専門学校グループからは毎年講師を派遣するなどして活動を支援している。2022 年度はコロナ禍の中、2 週間を通してすべてのプログラムをリアルに開催することができた。

② ボランティア活動

(ア) 地域ボランティア活動

国家・地域社会に貢献する観点から、学生の人間的成長を促すため、学生の社会貢献・地域貢献活動（ボランティア活動）を実施している。

活動内容： ・中州環境浄化パレード
・博多どんたく港まつり
・年末防犯、性犯罪撲滅ボランティア
・ATM パトロール 等

(イ) 子ども食堂

地域の小学校、公民館と連携し学生が企画・計画・運営を行うこども食堂を学内で月 1 回のペースで実施している。食事の提供や、こども達の

宿題などを支援する活動や健康増進のためのレクリエーションなども実施している。

2022 年度については、新型コロナの影響で回数は減少したが実施した。
内容：地域子どもたちに食事の提供 / 学習支援 / レクリエーション
連携団体等：小学校、公民館、社会福祉協議会、一般企業、NPO（特定
非営利活動法人フードバンク福岡）

7. 働きがい創生

（1）多様な働き方への対応

1 人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事の責任を果たすとともに、家庭や地域生活において、多様な生き方を選択・実現できる様、下記の取り組みをおこなっている。

- （ア）適切な労働時間の管理や年次有給休暇取得の定着（法定年休 5 日含む）
- （イ）長時間労働の削減。業務負荷分散に対する取り組みの実施。
- （ウ）ライフステージに応じた働き方に対する情報発信（時短勤務、育児休業・休業、子の看護休業、介護休業・休業、時差出勤など各種制度）
- （エ）女性の育児休業取得率は 100%を達成。男性の育児休業取得実績 2 件。
- （オ）時間単位年次有給休暇制度の定着。
- （カ）ノー残業デーの定着（月に 1 回以上）
- （キ）学内保育園『ASOはぐみらい保育園』での育児サポートの情報提供
働きやすい環境づくりとして、『ASOはぐみらい保育園』の運営を通じ、育児サポートしている。教職員利用者のために、幼保無償化の認定施設の許可を得た。
- （ク）キャリアプランやライフステージに合わせた働き方を実現するための幅広い雇用形態の整備と定着。

以 上